

令和7年度 第1回神奈川県立鎌倉高等学校 学校運営協議会 議事録

日時：令和7年7月17日（木）15：30～16：45

場所：鎌倉高等学校 国際理解ホール

出席者（敬称略）

（委員）田邊 克彦、加藤 俊志、牛見 誠人、菅野 喜八、高木 亮、佐藤 弘一、
齋藤 貴、岡田 雅彦

（事務局）佐藤 文美、石塚 隆夫、林 孝弘、石川比呂子、柴田 克也、良田 直優、
佐藤 靖彦、伊藤 剛

（欠席者）永山 悦子

議事録

【1. 校長挨拶】

暑い中、また御多用のところお越しいただきお礼申し上げます。学校運営協議会委員の皆様には、鎌倉高校の運営についてご意見をいただければと思う。行事等の連絡も差し上げるので、ぜひお越しいただきたい。

令和6年度には、会議室の空調、長期休業中のサービス等について、学校運営協議会として県教育委員会に対して意見を述べた。進捗を後日報告する。

【2. 学校運営協議会の開催にあたって】

(1) 委員の委嘱について

- ・以前は2年間任期だったが、現在は1年間任期である。昨年度に引き続きの方を含め委嘱するもの。
- ・校長より委嘱した。

(2) 学校運営協議会委員及び事務局員紹介

- 田邊委員：昨年に引き続き今年度も委員を務めることになる。
- 加藤委員：横浜国立大学の加藤と言う。横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校・鎌倉中学校の校長もしている。
- 齋藤委員：神奈川工科大学前副学長。
- 高木委員：同窓会副会長。生徒として3年間、教員として14年間鎌倉高校に携わっていた。恩返しをしたいと思う。
- 牛見委員：腰越中学校校長。近隣の学校として日々鎌倉高等学校の生徒の活動に関心をもっている。
- 菅野委員：七里ガ浜二丁目自治会住環境委員。生徒の安心安全について一緒に考えていきたい。
- 佐藤委員：PTA 会長。昨年に引き続きになる。保護者の立場として関わっていききたい。

(3)学校運営協議会について

- ・『神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則』および『神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営等に関する要綱』に沿って本校の学校運営協議会は設置されている。第一回協議会もこの規則に沿って進めさせていただく。

(4)会長及び副会長の選出

- ・牛見委員から田邊委員を会長に推薦。拍手をもって承認された。
- ・田邊会長が副会長に加藤委員を推薦。拍手をもって承認された。

【3. 協議】

(1) 学校運営協議会の組織について

○岡田委員：『神奈川県立学校における学校運営協議会の運営等に関する要綱』の第10条について、学校評価部会を設置し、7名の委員の皆様に学校評価部会の委員をお願いしたい。

○田邊会長：一同異論なし。学校運営協議会委員7名全員が学校評価部会の委員として承認することとする。

○岡田委員：学校設置部会には、昨年度よりキャリア部会も設置している。学力進学重点エントリーとして、理数教育推進校として、SSHとして、包括的に進路に資する部分を評価するため、今年度も継続設置したい。

(一同拍手により承認)

○岡田委員：キャリア部会委員として田邊委員、加藤委員、牛見委員、佐藤委員、学校担当者として佐藤副校長、林教頭、伊藤総括教諭、石川総括教諭、柴田総括教諭、佐藤総括教諭、永山総括教諭、良田総括教諭をお願いしたい。

○田邊会長：キャリア部会の委員として12名を指名する。

学校運営について

ア 学校教育計画に関すること

○岡田委員：学校要覧に令和6年度から令和9年度の学校教育計画を記載した。グランドデザインについては、学力向上進学重点校エントリー校・理数教育推進校が2本柱となる。その土台としてこれまで取り組んできたグローバル教育がある。これらを学校のミッションに反映させている。SSHの研究開発目標について、本校の研究課題は“総合知”を活用する人材の開発である。また、文理融合基礎枠という枠組みでの指定であるため、理数に関わらず文理融合的な視点から取り組んでいきたい。

○田邊会長：学校教育目標などについてご意見ご質問はあるか。

特になし。

イ 教育課程の編成に関すること

○教務 G：1 年生のカリキュラムについて、SSH 指定を受けて文理融合的な学びを実現できるように、教育課程新たに編成した。

ウ 学校組織の編成に関すること

○岡田委員：学校要覧より、学校は学年、グループ、教科の 3 本柱があるが、学校要覧では、グループを重視したまとめ方をしている。教務 G は、ICT についてや、生徒による授業評価について取りまとめている。学習企画 G は、特に SSH 事業について総括している。キャリア支援 G は、進路指導について取りまとめている。生徒会 G は、生徒の活動、特に部活動等に深く携わっている。生活指導 G は、規律だけでなく、特に教育相談関連にも取り組んでいる。管理 G は、防災教育や PTA、同窓会、100 周年業務を担っている。SSH について、学習企画 G を中心としつつ、進路実現にもつなげていきたい。

エ 学校予算の執行に関すること

○石塚事務長：就学支援金について、今年度から所得制限が撤廃され、臨時支援金による支援が加わった。

オ 学校施設及び設備等の管理及び整備に関すること

○石塚事務長：耐震工事は完了した。正門の工事や A 棟前のアスファルト舗装等の工事を 12 月に予定している。

○田邊会長：来年度に向けて、無償化の問題について、何らかの影響が出てくると懸念。学校の方に何か考えはあるか。

○岡田委員：公立学校と私学を比べたときに、設備面で私学に対して不利になるとよく言われるが、鎌倉高校はあまり影響がないのではとされている。就学支援金の要件確認等により事務職員を 1 人配置しており、無償化によって 1 減となると業務に支障が出る。この点について事務職員を減らさないように声をあげていきたい。

○田邊会長：来年度の募集についても頑張ってください。

(3) 神奈川県立鎌倉高等学校の教育活動について

1 教育課程・学習指導

- 教務 G：SSH 指定を受けて教育課程を再編成。また、授業改善のため、現在第 1 回生徒による授業評価アンケートを実施中。それに伴って授業改善をしていく。
- 学習企画 G：おかげさまで SSH 指定を受けることができた。特に総合知を活用できる人材の育成を目指していきたい。
- 齋藤委員：SSH に関することについて、教育活動の効果の検証、アンケート調査、教員側の評価など、成果の検証について重点化してもらいたい。
- 学習企画 G：SSH のミッションとして評価が必ず求められる。既に実施した事業についてもアンケートを実施している。年度末にそれらをお示ししたい。
- 齋藤委員：ループリックやアンケートのすり合わせをしっかりと行い、生徒と教員の達成したことと、達成したいことが同じになるようにしてほしい。

2 生徒指導・生徒支援について

- 生徒会 G：行事や生徒会など、生徒の主体的な活動を支援していくよう邁進している。部活動についても、いずれの部活動も頑張っている。特にサッカー部が県ベスト 16、剣道部も県ベスト 16 と、結果を残している。
- 生活支援 G：かながわこどもサポートドックを通じて早期の対応を心掛けている。

3 進路指導・支援

- キャリア支援 G：学力向上進学重点校エントリー校として、今よりも少しでも高い進路を目指させ、第一志望宣言をさせている。例年多くの国公立大、難関大に合格している。今年度に関しては進学準備が減少しているが、これは全国的な傾向である。3 年生は 3 月に難関国公立大学ガイダンスを実施。例年よりも難関大志望が多い。それらをサポートしたい。共通テスト出願について、WEB 出願が始まるので、丁寧に指導したい。

4 地域との協働

- 管理 G：近隣や藤沢分教室と連携しながら、防災訓練等で協働している。
- 佐藤委員：PTA との連携はどういう活動をイメージしてのものか。PTA が何かする必要があるのか。
- 管理 G：生徒の日頃の活動の中で実は恩恵を受けていることが多い。生徒が PTA の活動を認識できるように、それがスムーズに行われるように連絡調整を行い、見える化、工夫・改善をしていく。

5 学校管理・学校運営

- 佐藤副校長：ICT 活用、働き方改革によって生徒との時間を確保する。

- 管理 G：防災計画について、分教室と連携し、DIG 訓練を通じて、実際に生徒が自分で考えられるように、災害を想定した行動が取れるように ICT を活用しながら、防災意識を高めている。
- 加藤委員：働き方改革の具体と、その成果の検証方法を知りたい。
- 佐藤副校長：Teams の活用が進んでいる。朝の打合せはもちろん、文化祭の運営等でもチャットや打合せ掲示板を活用した。また、職員会議資料の電子化を行っている。検証については、職員の実感が大事。目に見える形での変化をさせていきたい。
- 加藤委員：教育学部の指導をしているが、勤務時間外に業務を行わねばならず、教員を志さない学生が多い。1 ヶ月の時間外勤務の計が 80 時間以上の人数が減ったかどうかなど、見える化したい。
- 田邊会長：働き方改革について、教職員の実感としてはどうか？
- 学習企画 G：実感としては変わらない。マンパワーが足りない。純粋に人を増やすことでしか対応できないと考えている。
- 牛見委員：便利になって合理化されると、その隙間に仕事ははいつてくる。また、SSH に指定され、これまで以上にやるが増えると推察するが、①業務の余白を捻出する工夫はあるか。②総合知をもったリーダー育成のポイントは何か。
- 学習企画 G：①について、工夫はないのが現状。強いて言えば予算がついて SSH 事務員を配置した。②について、総合知を活用できる人を育成という観点では文理で分けず、広い観点で見える力を育成していく必要がある。
- 田邊会長：中学生に向けたアピール等はあるか。
- 学習企画 G：まだ HP には載せられていないが、学校説明会等で周知していきたい。

（100 周年に向けて）

- 高木委員：来たる 100 周年に向けて OB・OG として何をするか議論した。生徒の喜ぶもの、ためになることがあれば伝えてほしい。目標があれば動きやすいし、お金も集めやすい。PTA・同窓会・地域で盛り上げたい。
- 菅野委員：生徒の安全について、ぜひご指導いただきたい。

（4）その他

1 今後の日程について

第 2 回は 12 月を予定。

SSH も含めた公開研究授業を 10 月に予定。ぜひ視察をお願いしたい。